

## 平成 30 年度第 4 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 平成 31 年 1 月 21 日（月）19：30～20：36

◆会場 伊勢商工会議所 5 階大ホール

### ◆出席委員

伊藤 仁司委員、西山 敦委員、宮崎 吉博委員、齋藤 平委員、加藤 徹也委員、  
西村 純一委員、前田 政吉委員、世古 晃文委員、松井 源紀委員、中村 功委員、  
山北 佳宏委員、藤岡 信委員、畑 金力委員

### ◆欠席委員

木村 成吾委員、岩崎 良文委員、三村 和也委員、森下 清委員

### ◆出席職員

情報戦略局長、情報戦略局参事（企画調整課長）、企画調整課課長補佐、同課主査、  
広報広聴課長、こども発達支援室長、同室係長、健康課副参事、高齢者支援課長、同  
課副参事、こども課長、学校教育課主幹、社会教育課長、商工労政課長、商工労政課副  
参事、農林水産課長、観光振興課長、観光誘客課長、交通政策課長、総務部参事（職員  
課長）、職員課副参事、市民交流課副参事、病院総務課長

志摩市、鳥羽市、度会町、明和町

### ◆内容

- ・「第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）」におけるパブリックコメント結果  
について
- ・新規取組（案）について

#### 1 「第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）」におけるパブリックコメント結果について

##### 【事務局から説明】

10 月 15 日開催の第 3 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会にて報告した「第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）」について、平成 30 年 12 月 1 日から平成 31 年 1 月 4 日までパブリックコメントを実施した結果を報告し、提出された意見及び市の考え方を説明。また、意見に伴う第 2 次共生ビジョン（案）の修正はない旨を説明した。

##### 【委員意見・質問】

- ・第 1 次産業に関する意見については、農業・漁業等の大きな施策に関することである。現行の共生ビジョンの第 5 章の農林漁業の振興は「鳥獣被害防止対策」だけなので、もっと他の視点による取組はないのかとも思う。頂いた意見は雇用の問題であったり、農林漁業の振興であったり幅広いことが書かれているので例えば分野を越えた農福連携や水福連携等にもつながっていくのかとも思う。  
⇒新たな取組については、今後の共生ビジョンの進行により検討をしていきたい。  
⇒農林漁業の取組としては、鳥獣被害防止対策とともに、引き続き地産池消の推進、地場製品の PR を項目としているので消費拡大の取組を進めていきたい。

## 2 新規取組（案）について

### 【事務局から説明】

新規取組「児童発達支援センターの設置、運営」について説明。国が定める基本指針において、平成 32 年度末までに、地域における中核的な支援機関となる「児童発達支援センター」を各市町又は圏域に 1 か所以上設置することとされているため、定住自立圏にて設置、運営を行っていかうとするもの

当該新規取組は、定住自立圏形成協定に記載されていないことから、協定書の変更が必要となる。今後、連携する市町の議会の議決を経て、3 月末までに協定書の変更、締結を行う予定。議決された場合、変更協定の締結を行い、当該新規取組を第 2 次共生ビジョンに加えて策定としたい。

### 【委員意見・質問】

- ・児童発達支援センターはどこにできるのか

⇒現在のおおぞら児童園を児童発達支援センターとして位置付けし、新たにいせトピアの隣にある公園敷地への新築移転を予定している。そこで、発達に課題のある子供の療育を行ったり、保育所等へ作業療法士が巡回し、指導を行う保育所等訪問支援事業を行う。

## 3 第 2 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）の確認について

### 【事務局から説明】

前回の第 3 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会で報告した内容の軽微な修正について説明。今後の予定としては、伊勢市議会へ報告し、3 月末に策定とする。新規取組に係る協定変更の議決を受けた場合、当該取組も加えて策定としたい。

<修正箇所>

- ・ 12、13 ページの各市町「名産・特産品」の漢字、ひらがな、カタカナの表記を統一
- ・ 17 ページ【図表 12】の伊勢市医療診療所に休止施設を 1 件追加

## 4 その他 圏域の現況や課題等に係る意見・質問等

### 【委員意見・質問】

- ・病院群輪番制の取組については、伊勢赤十字病院と伊勢総合病院が 5 : 1 の輪番制で実施している。慶応病院が存在したときは、1:1:1 であったが、新伊勢病院となったことに係る輪番制について今後の考えはあるのか。  
⇒5:1 を変更していくほどの医師数の確保には至っていないため、今後も医師数の確保を行うとともに検討していきたい。
- ・パブリックコメントで寄せられた意見について、各施策の中でその主旨を踏まえて検討を進められたい。
- ・インバウンドによる観光客が増加しているなか、外国人から熊野古道を歩きたいという問い合わせが数件ある。外国語に対応し、熊野古道を歩いてもらえる施策も考

えてもらえればと思う。

また、タクシーが少ない状況に係る観光客の声も聞くため、こういった問題も圏域で将来的に取り組んでいただきたい。

- ・農林業のパブリックコメントの意見について、論点を整理し取り組んでいかなければならないと感じる。農業に関する人づくり、農環境整備、物づくり、販路拡大、支援体制の整備、プロモーションについて、圏域で進めていただきたい。
- ・第1次産業について、水産業が減少してくると観光とも連携しているため、観光業にも影響が生じてくる。地域活性化のために水産業等の後継者育成についても力を入れていただきたい。
- ・政策分野を越えた結びつきによる取組、農福連携など、障がい者の雇用についての検討の機会があればお願いしたい。
- ・地産地消は、早くから取り組まれているが、広がりには少ないように感じる。私の地域では、社会福祉協議会との連携で、水福連携として障がい者の方に牡蠣の養殖を手伝ってもらっている。そういった他の分野との連携により、地産地消がもっと広がるのではないかと思う。  
また、共生ビジョン（案）の第1次産業の就業者の表があるが、現在はもっと減少し高齢化していると思われるので、その辺りもっと掘り下げて議論をしていきたいと感じる。
- ・事業承継について、私の地域でも第三者事業承継の事例が初めてあった。そういったことも定住自立圏で連携が取れば、もっと前向きなことができるのではと感じた。地産地消についても圏域のネットワーク等あれば広域で取り組んでいただきたい。
- ・創業支援について、伊勢市の創業者への補助と、他地域の補助で差があると感じるため、同じような補助が受けられればと思う。また、商工と福祉の連携もあるので、今後、連携を進められればと思っている。事業承継の関係も取組に加えていただきたい。
- ・インバウンドとともに、働く外国の方も来るが、言葉の障害があると思う。働く方々が言葉を覚えてもらえるような場も広域で考えていただきたい。また「圏域のマネジメント能力の強化」について、ケアマネジメント能力を中心とした研修を進めていただきたい。
- ・私の地域では、働く場所の関係で、他市へ出ていく状況。高齢者の自然減より、若い人の流出が多いので心配なところである。  
インバウンドについては、最近では性能が良くなってきている自動翻訳機を活用できるような施策の検討もしていただきたい。
- ・第2次共生ビジョン（案）の取組事項「イベント等の誘致・開催」について、三重とこわか国体、三重とこわか大会以降の検討の状況はどのようなか。また、現在、伊勢市内で実施しているループバスについても、将来的に取組事項「コミュニティバス運行の連携」に入ってくるのか。

⇒イベントの取組について、今後、進めている政策も見ながら検討していきたい。  
⇒市内巡回バスについては、現在社会実験として実施しており、市外との連携については今のところ考えていない。

5 第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン（案）に係る答申について

平成30年8月29日付け諮問書（第2次共生ビジョンの策定にあたりビジョン懇談会の意見を求める）への答申については、懇談会の意見を全体的にまとめて、会長と事務局で調整することとされた。

以上